

お知らせ

諸学会連合研究奨励賞の創設に向けて 検討を開始

国際的に見て、日本の宗教学研究の長所の一つは多様性にあります。その多様性を時代に即した方法により更新しつつ維持するという観点から、本連合の運営委員会が「日本宗教学研究諸学会連合研究奨励賞」の創設に向けて検討を開始しました。短期では目に見える成果が出にくいですが重要な研究、経済再生に直結はしないが文化の発展に寄与する研究をしっかりと評価し、若手研究者サポートに結びつけます。



Fasil Ghebbi, Gondar. Ethiopia (A. Savin)

昨年度の活動報告



- 日本学術会議前副会長・井野瀬久美恵先生をお招きし、日本宗教学会（大谷大学）にて、特別セッション「宗教学研究の振興と学会・学会連合の役割——学術会議との対話」を開催しました。
- 同大会中に、男女共同参画・若手支援のための懇談会を企画しました。
- 日本学術会議現副会長・渡辺美代子先生をお招きし、学術会議公開シンポジウム「科学技術の進展と人間のアイデンティティ——哲学・倫理・思想・宗教学研究からの問いかけ」を共催しました。

※全て詳細な報告をHPにてご覧いただけます。

日本学術会議の取り組み

- SDGsといった社会課題、科学技術イノベーションのためのSociety 5.0といった社会構想に、人文社会科学が関わりつつもその多様性を維持するにはどうすべきかを議論しています。
- 哲学委員会では宗教学研究にも大いに関わる「世界哲学の構築」の試みが始まり、これについて11月30日に学術会議講堂にて、本連合共催・公開シンポジウムを開催することになりました。

運営委員会から

貴学会のシンポジウム・パネルを応援します！

貴学会が主催するシンポジウムや学会企画を、本連合から（運営委員会が審議した上で）共催／後援します。事務局にご申請ください。

2020年にニュージーランド・オタゴ大学で開催される、IAHR（国際宗教学宗教史学会）世界大会の基調講演者に、本連合の運営委員、下田正弘先生が選出されました。

オタゴ大会の参加申し込みは8月1日に始まります。

発行

日本宗研究諸学会連合事務局
お問い合わせ先
jfssr20084@gmail.com